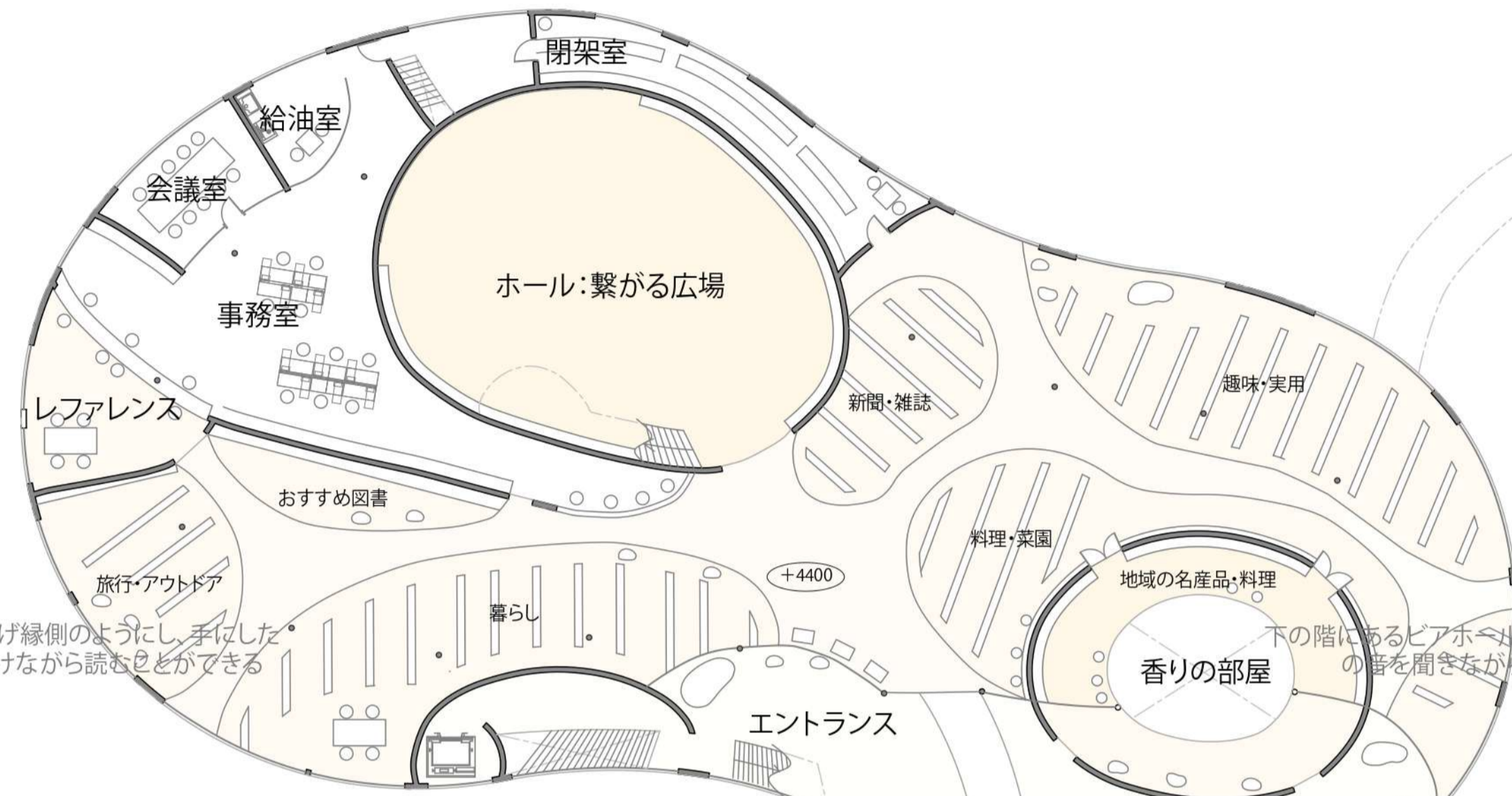


### 繋がる広場

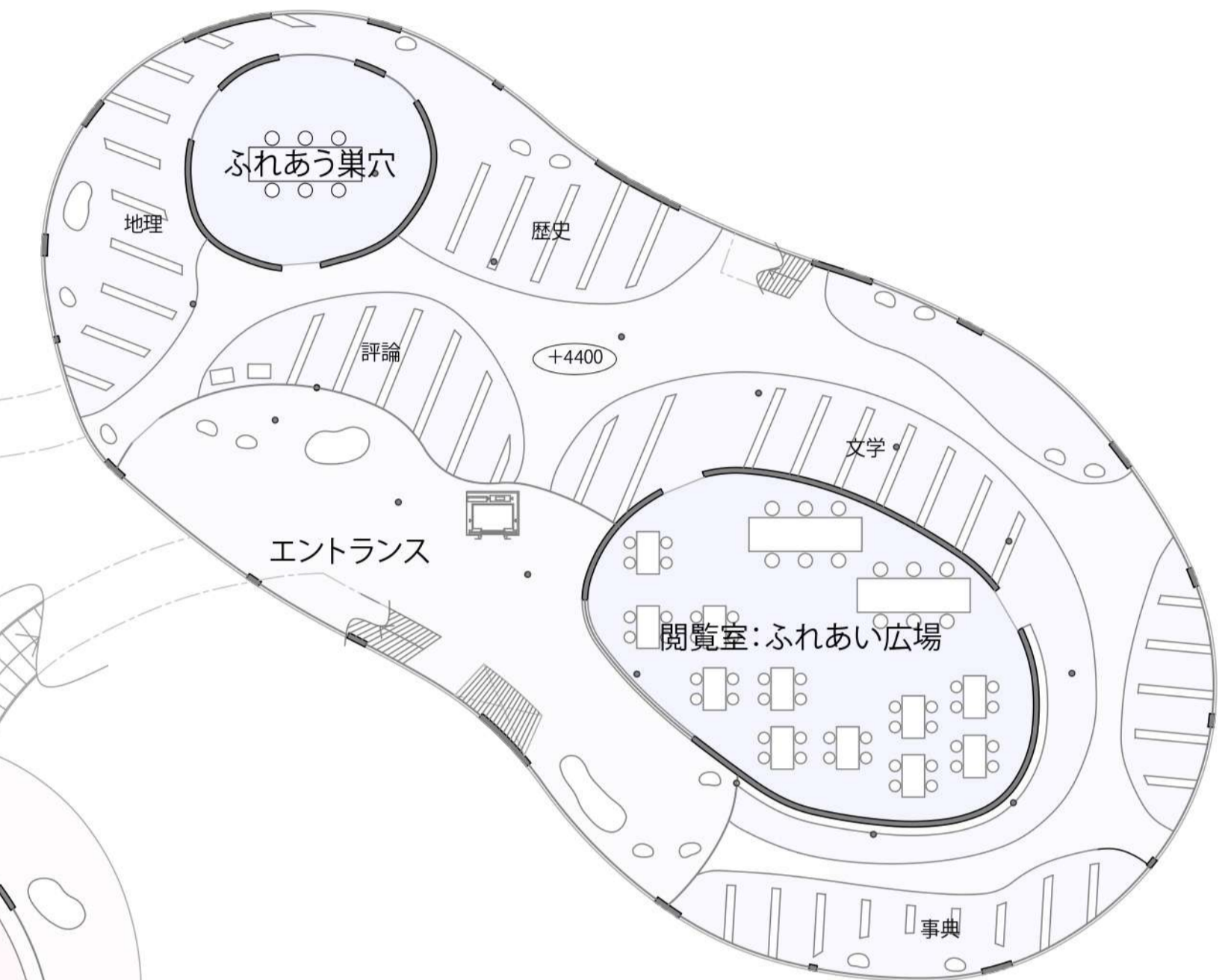
選んだ本を片手に寝っ転がったり輪になったりなど自由に過ごすことができる広場。またここで朗読会や企画を行い人と本の繋がりを深めることができる。その企画の一つとして、夜に映画の鑑賞会を行い、みんなで一つのカタチを共有する。そして見終わった後は、みんなで感想を言い合い、新たなつながりを生み出す。また、隔週で大人のための鑑賞会を開催し、併設しているレストランのビールを飲みながら参加することができる機会を設ける。



下の階にあるピアノホールと吹き抜けて繋がっており、料理の香りやジョッキの音を聞きながら、料理に関する本を手にとることができる

### ふれあい広場

本は手にするだけでは、自分のものにすることができず、ふれあうことが必要となる。そこで手にした本をふれあうための広場を設け、その機会を増やすきっかけを作る。またその広場をライブラリー以外の機能を持った場と隣接させることで、ふれあう様子を他の人に伝えることができる。



### 開架:出会いの森

### 本をめぐる森

外から伸びてきた散歩道が本棚で囲われた森のようなライブラリーに入る。ここでは種類がバラバラな本が置いてあり、本棚をめぐるながら色々な本を目にすることができる。それにより新しい知識と出会う手助けとなる。また手に取った本を自分の好きな位置に戻し、次の人とその本が出会うきっかけを作る。

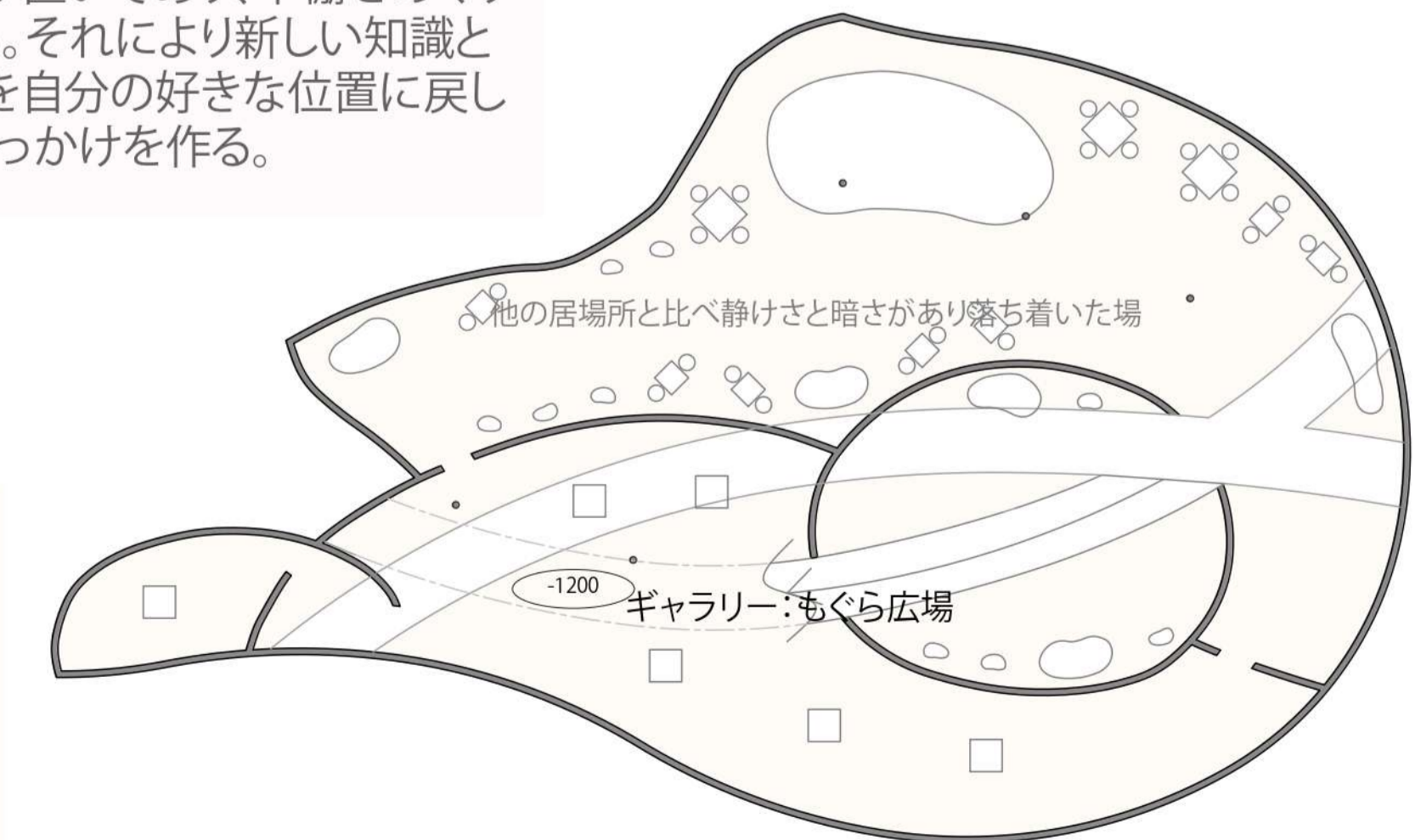
2階平面図 S=1/200

### 私の音と君の音

外と空間を隔てる壁がない広場であり、外からの情報を得やすい広場である。また楽器博物館を繋ぐ連絡通路があり、その先には誰でも自由に演奏できるピアノを設置。浜松市はピアノが名産品であり、ピアノを弾ける人が多い。ここではピアノの音のみならず、外の音も入ってくる広場であるため、自分の音と他の人の音によるセッションを耳にすることができる。

### みんなのギャラリー

地元の作者による作品を展示するギャラリー。またギャラリーにいる人の視線がGLになる高さまで下げており、広場で過ごしている人を観察することができる。また時間や人数、目的により広場の顔が変わるため、それを見ることがもできる。そうすることで、作品だけがメインになるのではなく、人も一つの作品となることできる。



地下1階平面図 S=1/200

楽器博物館